

頑張れ！受験生 地元産品で応援

羽後中 羽後牛、イチゴに笑顔「“モー烈”に勉強する」

羽後町は、高校入試を前にした羽後中学校の3年生125人を応援しようと、町特産の羽後牛の肉を提供している。27日から30日にかけて、1学級ずつが家庭科の調理実習の時間にステーキを調理し味わっている。

27日は生徒30人がきめ細やかなサシが入った約200gのサーロインステーキを丁寧に焼き、教室中が肉の焼ける良い香りでいっぱい。サラダやスープも作り、デザートには町産のイチゴも用意した。生徒たちは肉を頬張り、顔をほころばせていた。佐藤成さんは「応援への感謝の気持ちを込め食べた。受験に向けてスタミナを付け、引き続き“モー烈”に勉強に励みたい」と話した。

羽後牛の提供は、受験生を応援するとともに、町特産品の良さを知って古里に愛着を持ってもらおうと、2017年度から実施している。（館岡朋美）



羽後牛のステーキを味わう3年生たち

皆瀬中 そば、皆瀬牛に舌鼓 「問題するする解くぞ」

高校入試を前にした湯沢市の皆瀬中学校3年生9人を激励しようと、地域住民でつくる皆瀬地域自治組織（小野田敏昭会長）は27日、地元のそば店「かえで庵」でそばと皆瀬牛のステーキを振る舞い、エールを送った。

生徒たちは放課後、店に集合。皆瀬産のそば粉を使った十割そばと、地元特産の皆瀬牛のステーキに舌鼓を打った。ステーキは細かくカットして「合格」の文字をかたどったものが大皿に用意され、おのおのがバイキング形式で取って、焼いて食べた。

高橋英汰さんは「地域の人から応援してもらいうれしい。かえで庵の十割そばのようにするすると問題を解いて合格を目指したい」と話した。

取り組みは昨年からはじまり、今年で2回目。小野田会長（67）は「地域みんなで生まれてきた時からずっと見守ってきた子どもたちを応援し続けたい」と話した。

（館岡朋美）



そばと皆瀬牛に舌鼓を打つ生徒たち

（令和7年1月28日(火)秋田魁新聞より一部抜粋）